

## 生態工学 2017 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2017 年 10 月 12 日（木）13：30～15：20

場 所：東京文化会館

### 【総務委員会】

#### 2017 年度総務委員会活動報告（10 月期）

- (1) 会員数・賛助会員数に関して報告があった。
- (2) 報告事項
  - ・ 後援依頼に関して  
「日本学術会議公開シンポジウム」の後援を行った。
  - ・ 協賛名義使用依頼に関して  
「アグロ・イノベーション 2017」に対する協賛名義使用の承諾を行った。
  - ・ 通帳名義について  
通帳の名義を木部勢至朗前会長から北宅善昭現会長に変更を行った。
- (3) 審議事項
  - ・ 推薦依頼について  
「日本農業工学会賞 2018 候補者の推薦依頼について」  
推薦者の議論を行い、木部勢至朗会員を推薦することとした。
  - ・ 「戦略的創造研究推進事業・総括実施型研究（ERATO）研究総括候補者の推薦」に  
ついて、推薦者を募ることとなった。

## 【編集委員会】

### 2017年度編集委員会活動報告（10月期）

- (1) 生態工学会誌の発刊  
下記報告がなされた。

生態工学会誌「生態工学」29巻2号～29巻3号(2017年4月、7月発刊)を発行した(内容:原著論文7、短報1、受賞記念寄稿1、お知らせ2、投稿規程、総ページ61)。2017年10月10日時点での査読中および受理済みの論文は、原著論文で査読中が1報、著者修正中が1報、受理済みが7報である。(29巻4号に3報、30巻1号に3報、30巻2号に1報掲載予定。)

また、29巻3号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2017年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第29巻		第30巻	
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	3	4		
短報	1			
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿	1			
ニュース・企画・報告				

- (2) クラリベイトアナリティクス社の Emerging Sources Citation Index(ESCI)への対応  
下記報告がなされた。

クラリベイトアナリティクス社(以下CA社、Thomson Reutersが2017年3月に社名変更)より、Eco-engineering誌がWeb of Scienceの新しいコンテンツ Emerging Sources Citation Index(ESCI)の収録対象となっている旨、連絡があった。

この件に関して、学会誌のオープンアクセス化(以下OA化)の是非について論議を行った。

結果として、現状ではESCIへの収録はOA化を行わずに目指すことになった。

- (3) 学会誌のOA化について、編集委員会から  
下記報告がなされた。

CA社ESCI収録の件にて、CA社よりJ-stageに掲載されている本誌の原稿をPDFについて「制限のない状態」とするよう求められた。当初、これはOA化を意味すると判断し、その是非について編集委員会で議論することとなった。(その後、実際にはOA化しない方法があることが判明し、編集委員会としては、「OA化の議論を待たず、OA化以外の方法でESCIの収録交渉を継続する」こととなった)

一方で、「ESCI側としては利用者に広く情報を提供したいことから、各学会誌には強くOAを求めている」とお伝えられたため、OA化に関して臨時メール会議を行い、意見を収集した。

その結果、以下の様な意見があった。

- ・OA化の可否は、理事会にて今後の運営方針や会員サービスなどの面も考慮して議論すべき。

- ・理事会で必要な判断材料として、「OA 化による学会の経費と作業が、どれほど増加するのか」用意しておくべき。

これを基に、編集委員会としては下記のように結論づけた。

「OA 化に反対はしないが、OA 化は学会運営も含め理事会で議論し、その時期についても理事会で議論するのが適当である。」

- (4) 学会誌のオープンアクセス (OA) 化について  
本理事会での議論のにて、下記内容が議論された。

- ・ OA 化によって会員が減少するか。  
購読のみを希望されている会員は少なく、会員にとっては OA 化によって学会誌に掲載された論文が引用されるなど会員へのメリットの方が大きいと思われるので、OA 化を目指す。
- ・ OA 化の制限について
  - 1、アンセキュア PDF を提供する。(JST では推奨されなかった)
  - 2、セキュア PDF のアンロックパスワードを共有する。
  - 3、印刷のみ可、再利用可とする。(コピー&ペースト出来ない)  
どこまで OA 化の制限をかけるかを議論した。2、3 を編集委員会にてさらに議論することとなった。

## 【企画委員会】

### 2017 年度企画委員会活動報告 (10 月期)

下記の報告がなされた。

- (1) JpGU-AGU Joint Meeting 2017 (合同開催)
- 日 時：2017年5月20日 (土) ~5月25日 (木)
- 会 場：幕張メッセ、東京ベイ幕張ホール (千葉市)
- 主 催：日本地球惑星科学連合、米国地球物理学連合
- 特記事項：5月20日 (土) にセッション「閉鎖生態系と生物のシステムー生物のシステムを介した物質循環」において、5件の口頭発表と4件のポスター発表を実施。

(2) 2017年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2017年6月23日（金），24日（土）

会 場：東京海洋大学品川キャンパス楽水会館（東京都品川区）

参加数：90名

特記事項：○一般セッション口頭発表 16課題、ポスターセッション23課題

○オーガナイズドセッション

「乾燥地に適応した水産養殖と農業の結合システムの開発-メキシコ南バ  
ハカリフォルニア州における持続的食料生産のために-」

○宇宙生命維持技術研究部門研究会講演会

「宇宙食の現状」野上和真氏（JAXA）

○一般公開特別講演会 「海洋環境、海洋資源・エネルギーの現状と未来」

海洋資源環境学部が目指す海洋環境研究の未来

神田穰太氏（東京海洋大）

地下を見る目

鶴 哲郎氏（東京海洋大）

実証研究から見る日本の洋上風力発電の現状と未来

池谷 毅氏（東京海洋大）

(3) 第61回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2017年10月25日（水）～10月27日（金）

会 場：朱鷺メッセ（新潟県新潟市）

主 催：日本航空宇宙学会

特記事項：25日（水）にオーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～宇宙居住を  
実現する閉鎖生態系技術～」を企画し、10件の講演を予定。

(4) 第10回 生態工学定例シンポジウム

（次世代科学社会活性化委員会のシンポジウムと共催）

日 時：2018年3月28日（水）、29日（木）

会 場：つくばカピオ（茨城県つくば市）-予定

特記事項：次世代化学社会の活性化を目指すシンポジウムとして、海外で活躍する女  
性研究者の講演や「地球環境」「宇宙」「火星」などを題材とした絵画・  
作文・音楽の募集と展示などを企画中

(5) 定例研究会

第1回

テーマ：国際有人宇宙探査の調整状況

日 時：2017年6月 1日（木）

会 場：東京文化会館

講 師：佐藤 直樹 氏（JAXA 有人宇宙部門HTV技術センター）

## 第2回

テーマ：環境指針値をクリアできる空気浄化装置の開発とその応用

日 時：2017年10月12日（木）

会 場：東京文化会館

講 師：白石 文秀 副会長（九州大学大学院農学研究院）

## 【表彰委員会】

### 2017年度表彰委員会活動報告（10月期）

下記の報告がなされた。

#### (1) 表彰式の実施

2017年6月23日、東京海洋大学楽水会館ホワイエにて開催された2017年度総会の後に表彰式を行ない、以下の通り表彰した。

#### 【論文賞】

遠藤良輔 殿

養液栽培のためのメタン発酵消化液の利用

#### 【奨励賞】

三好悠太 殿

潜熱蓄熱材を利用したハウスの省エネルギー温度管理に関する研究  
－カンキツ加温栽培への応用例－

東尾恭詳 殿

蛍光分光法を用いたビール酵母活性のモニタリング

宮脇温子 殿

S-system および GMA-system における定常状態感度計算法の検討

#### 【講演論文賞】

潘 洋 殿、郭 冠霆 殿、細井文樹 殿

S L AMによる樹木群落構造計測の検討

岩永征士 殿、古藤俊昭 殿、田之上祐太 殿、白石文秀 殿

農産物の鮮度保持を目的とするエチレン分解装置の検討

森 直哉 殿、渡邊博之 殿

成長促進が誘導される酸化および低温処理時におけるリーフレタスのストレス応答の比較

加藤木ひとみ 殿、藤森祥平 殿、富田一横谷香織 殿

ラン科植物ネジバナと菌根菌の生長過程における生存戦略

津田優樹 殿、田村匡嗣 殿、齋藤高弘 殿、房 相佑 殿、星 佳宏 殿

栽培環境の違いが香味菜の生育および抗酸化性に与える影響

#### (2) 2018年度学会賞候補者の募集

2018年度学会賞候補者の推薦を募集している。

締め切りは10月31日。

#### (3) 賞状および記念品の送付

2017年次大会において講演論文賞を受賞された方々に賞状と記念品の準備を行い、送付した。

(4) 講演論文賞について  
理事会議論が行われ、下記内容が決定した。

- ・ 講演論文賞の選定方式について  
これまで、大会時に参加者による投票によって決定していた講演論文賞に関して、聴講者の数が発表の時間帯や日程によってかなり異なっており、聴講者の少ない時間帯に発表した発表は投票されにくいといった問題があった。  
議論の結果、大会時の各セッションの座長を2名とし、さらに理事1名を加えて審査員とし、セッションごとに1~2件の受賞候補発表を選定する。  
この候補をもとに、会長並びに表彰委員が最終的に5件以下に絞り込む。
- ・ 非会員の学生の講演論文賞授与について  
学生に限り、共著者に学会員が含まれているなら非会員でも講演論文賞の選定候補となる。
- ・ 講演論文賞の名称について  
講演論文賞を優秀講演賞に変更し、今まで論文に名前が掲載されている方を連名で賞状と記念品を作成、授与していたが、来年度より講演を行った方のみを受賞者として表彰する。

## 【広報委員会】

### 2017年度広報委員会活動報告（10月期）

下記の報告がなされた。

#### (1) SEE Quick（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2017年4月1日から2017年9月29日までに70回（通算1334回）情報提供を行った。

#### (2) HP の内容の更新

HP内の新会長の挨拶の掲載や各コンテンツの確認・更新作業を行なった。

## 【国際委員会】

### 2017年度国際委員会活動報告（10月期）

下記の報告がなされた。

#### ・ Eco-Engineering Symposium 2017

Application of Technology for Sustainability of Natural Resources（合同開催）

日 時：2017年6月12日（水）～6月15日（土）

会 場：カセサート大学（タイ王国バンコク市）

主 催：生態工学会、カセサート大学

## 【次世代科学社会活性化委員会】

### 2017年度次世代科学社会活性化委員会活動報告（10月期）

下記の報告がなされた。

- ・次世代科学社会応援シンポジウムおよび第10回生態工学会定例シンポジウム企画について

主 催：次世代科学社会活性化委員会（検討中）

共 催：企画委員会

期 日：2018年3月28日（水）、29日（木）

会 場：つくばカピオ（茨城県つくば市）

アクセス：TXつくばエクスプレス「つくば駅」下車 A3出口より徒歩10分

概 要：次世代科学社会の活性化を目指すシンポジウムとして、一般公開で行う。長年海外で活躍されている女性研究者の秦恵先生（USRA）のご講演をはじめ、関連テーマの講演の他、「地球環境」、「宇宙」、「火星」を題材にした絵画や作文、音楽の募集とホール前ホワイエでの展示、さらに次年度の年次大会との連携企画も検討中

#### 次年度年次大会との連携企画案

コンセプト：

シンポジウムでは、これまで活躍されてきたシニア世代の方々とともに次世代を担う数多くの若者に対して参加を訴求したいと考えている。そこで、シンポジウムへの参加募集の中に、小中学生も含めて次回の生態工学会年次大会に「次世代枠」として参加できるという広報を加えたい。内容は、次回年次大会前に小中高生に環境や自然科学に関する自由研究を募り（書式検討中）、その中から優秀な賞を2件ほど選出し、次回年次大会に参加を依頼する。このとき、賞受賞者は年次大会参加を約束し、奨学金のような形か交通費（上限あり）で応援する。年次大会では小中高生枠（ポスター展示）を設けて、再度賞を決定する。この時は賞状程度の賞品を渡す。これらの広報は3月の次世代科学社会応援シンポジウムの過程で行う（検討中）。学術大会において研究者と交流することで、生態工学をはじめとする理系研究に対する関心を育てることが期待できる。

#### 広報素案

- ①事前に環境科学に関する研究やまとめた何らかのレポートを生態工学会事務局に提出
- ②提出されたレポートの中から2件以内で、優秀レポート賞として年次大会参加のために上限2万円ほどを奨学金として提供。
- ③大会では、ポスター参加者を上記2件も含めて募集し、大会時に改めて優秀賞などを用意する。従って、②の受賞者は、大会に参加することが約束される。（その他の参加者の交通費などは自費とする）。

理事会にて、下記意見が出された。

- ・次年度以降の年次大会との連携を視野に入れ、「次世代」枠をつくば市の小中高生に限定するのではなく、年次大会の開催地の小中高校生や国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）にて行われているプログラム・スーパーサイエンスハイスクール指定校に参加していただけるよう学校に声をかけるなど、持続できるシステム作りや資金繰りが検討課題となる。

## 【各支部活動】

### 2017年度各支部活動報告（10月期）

【関東支部】今後の活動として、企画委員会に協力し、シンポジウム開催や新規会員の増員を目指す。

#### 【関西支部】

12月2日に、大阪府立大学において、日本農業気象学会近畿支部との共催でシンポジウムを開催する。

次年度開催の大阪府立大学での大会を準備している。